梯川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

■年間降水量は、平野部で約2,200mm、山地部で約2,700mmと全国平均を大きく上回る
■下流部の河床勾配が約1/4,500の緩流河川であり、山間地と海岸砂丘に囲まれた低平地で、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生
■想定氾濫区域には、県内人口第3位の小松市街地、国道8号、ＪＲ北陸本線など資産や重要な広域交通網が集中

流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積)	:271km^2
幹川流路延長	:42km
想定氾濫区域内人口	:約11.2万人

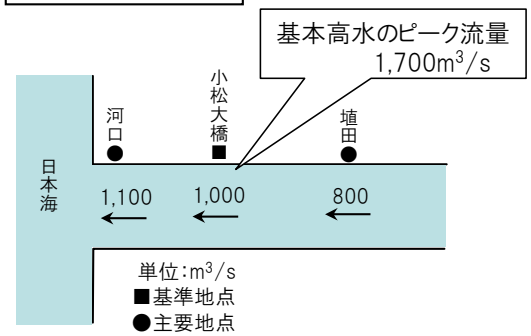
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

■広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保する。
■埴田地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、4月～6月及び10月～11月は概ね1.4m^3/s、12月～3月は概ね2.3m^3/s、それ以外の時期は概ね1.1m^3/sとする。

災害の発生の防止又は軽減

■既定計画策定後に計画を変更するような大きな洪水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、時間雨量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等により総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に、基本高水のピーク流量を基準地点小松大橋で1,700m^3/sと設定。

流量配分図(案)



●社会的影響、河道の安定等を総合的に勘案し、引堤及び河道掘削等による河積の増大、堤防強化等を実施し、計画規模の洪水を安全に流下させる
●河道で処理できない流量については、既設洪水調節施設の有効活用及び新規洪水調節施設で対応
●下流部は、山間地と海岸砂丘に囲まれた低平地が広がり自然排水が困難なことから、関係機関と連携・調整を図りつつ、内水対策を実施

引堤による河積の確保

既設洪水調節施設

内水対策

河川環境の整備と保全

■上流部では、イワナ、サンショウウオ等が生息する渓流環境の保全に努める。
■中流部では、アユの産卵場等となる瀬・淵が連続する河床形態の保全に努める。
■下流部では、オオヨシキリが生息するヨシ原、ワスレナグモ等が生息する高水敷の草地環境、セイタカヨシが生育する感潮域の多様な水際の保全等に努める。

瀬・淵

オオヨシキリ

感潮域の多様な水際